



八幡の宝 棚田を大切にしよう ~ふるさと物語発表~

9月28日(土)に千曲市のふるさと物語がありました。今年は八幡小学校が担当ということで5年生が発表に向けて学習し、準備練習を重ねてきました。

ステージでは棚田の歴史、棚田についての俳句、キャンプで訪れた弁天清水、そして米作りについて発表しました。棚田についていろいろな面からアプローチし、その魅力を「宝」として聞いている方に伝えました。最後には、「棚田姫」の歌を歌い、その最後に照明が落ちたところで「ペットボトル」(ペットボトルを利用して作ったライトアップ用LEDで棚田に設置予定)を点灯させるという素敵な演出もありました。聞いている方々も子どもたちの澄んだ声と、美しい光に心を打たれていました。



10月2日には、名月会の皆様に協力していただいている米作りの稲刈りがありました。稲刈りは初めてという子も多くいました。鎌で一株ずつ刈り取り、それを藁で束ねてはぜかけに。みんなでやっても、大変な作業で、米作りの苦労の一端を感じることができました。

5年生は、このような活動や学習を通して、ふるさとを大切にしていこうという気持ちを育てています。

まちがえたときがチャンス ~10月校長講話~

みなさんは、授業中や普段の生活などで、わからなくてこまったことや失敗してしまったこと、まちがってしまったことがありますか。算数の時間を考えてみましょう。問題を読ん



でみたけど、わからないとき、どうしますか。

では、教室でまちがえてしまったことはありますか。先生にあてられて、自信を持って「答えは〇〇です。」と言ったら、周りから「違います。」と言われてしまいました。そんなとき、どうしますか。

恥ずかしい、言わなきゃよかった、もう、やらない、もう、やだ。そん

な気持ちになってしまいますね。中にはノートを閉じてしまったり、机にうつぶしてしまったり、ふてくされてしまったり、泣いてしまったり・・・そんな人もいるかもしれません。

まちがえることは確かに、うれしいことではありませんが、まちがったときにどうするかでその人が成長できるかどうかが決まります。

逆に、学校でやる勉強が、すらすらわかって、1つもまちがえないようなときはすごくいいように思いますが、実はその勉強はあまり頭に残らないのです。よくできたことは、案外すぐに忘れてしまうものです。

人間は、失敗したりまちがったりしたことはよく覚えています。だから、まちがったときがしっかり学べるチャンスなのです。まちがえると人は、自分をふりかえり、考えます。

「あ～、問題をよく読まなかったな。」「ここで計算ミスをしたんだ。」

「友だちと話し合いをしたら、わかってきたぞ。」

「なるほど、そういうことだったのか。」

「やり直したら、正しい答えになったぞ。」

「ほかのやり方もあるなあ。やってみよう。」

答えをまちがった人がこのように学んだときには、すらすらできた人よりも、もっと深くわかって、学習がもっと楽しくなるはず。まちがいをチャンスにした人は、「まちがえる」人になっていくのです。

まちがえたら恥ずかしい、まちがったことを言ったりノートに書いたりしたらいけないんじゃないか、友だちに笑われてしまうのではないかと、思っている人は多いと思いますが、まちがってもいいんです。まちがえたときがチャンスなのです。まちがっても、ふりかえり、考えてがんばると見違える自分になっていきます。

まちがえる、ふりかえる、かんがえる、みちがえる。まちがっても大丈夫。今度教室でまちがってしまったときや失敗してしまったときは、「チャンスだ。」と思って、挑戦してみてください。

まちがえたって だいじょうぶ



お知らせ



○昇降口前に立っていた時計は、故障のため撤去しました。その代わりに、入り口の学校名の右側に新しい時計をつけていただきました。子どもたちも朝の登校時刻や、下校時刻がはっきりわかるようになりました。

○裏面には、「今の八幡小は・・・その5」を印刷しました。昭和49年から平成19年までの歴史と、校舎や学校の変化の話です。裏面もご覧ください。

